

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：わおわお元住吉保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：氏家 朋子	定員（利用人数）：49名	
所在地：〒211-0025 川崎市中原区本月2-17-1		
TEL：044-431-1180		
ホームページ：http://www.waowao.or.jp/nursery/nursery06.html		
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2008年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人わおわお福祉会		
職員数	常勤職員：11名	非常勤職員：2名
専門職員	（専門職の名称）	名
	保育士 12名	保育補助 1名
	調理師 3名（委託）	
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）
	1歳児室 1室	設備 調理室 1室
	保育室 3室	設備 職員休憩室 1室

③理念・基本方針

<理念>

- “ほめて・みとめて・はげまして”

～やる気を育て、自分で考えて行動できる子どもを育てる～

<基本方針>

- 豊かな人間的ふれあいを通じて「人と人との信頼」の価値と尊さを身につけます。
- 子どもの社会性を培い、人間性を育む上での「正しい習慣」を身につけます。
- 面白いね！ふしぎだね！すごいね！という体験を豊富に積み重ね「創造性の芽生えとやる気」を育てます。
- 「もじ・かず・ことばへの興味や関心」を育てます。
- 人と人とのつながりを大切に「元気で明るく、笑顔であいさつできる子ども」を育てます。
- やさしい気持ちを養い、忍耐力・正義感・自制心をもつ、豊かな心を育てます。
- 命の尊さを知らせ、慈しむ心と感謝の心を育てます。

④施設・事業所の特徴的な取組

●社会福祉法人わおわお福祉会（以下、法人という）は保育所保育指針の改定を機に、系列全保育園で各地域の子育てステーションとして活動する保育園となるよう取り組みを進めています。子育てステーションとは、地域のニーズを捉え、子育て世代への支援（地域支援）の本格的実施に取り組み、子育てに対する悩み、食事に関する相談、発達に関する相談、地域の子育てに関する情報提供ができる地域の子育て支援の拠点です。子育てステーションの取り組みスケジュールは、令和元年度に子育て支援を本格化し、保護者との連携による保育として保護者の悩みと保育園の考え方を保護者と職員が共有します。令和2年度は前年度の検証から保護者へ保育の助言を行い、令和3年度に家庭との連携の取り方の標準化を図ります。令和4年度には地域の子育て支援として取り組みを始め、入園児童の家庭と連携を図って他の子育て世帯にアプローチを行っていきます。令和6年度を目途に「子育てステーション」として地域になくてはならない保育園として確立を目指します。わおわお元住吉保育園では地域の子育てステーションになることを目指して取り組んでいます。職員一人ひとりがホスピタリティ精神の基、保育士としての専門性を身につけ、習得した専門的知識・技術により保育の質を高め、そして、保護者支援、地域支援につなげていき、子育て支援の拠点となれる保育園を確立していきます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2019年 7月 31日（契約日）～ 2020年 6月 3日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	初回（年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1. 【地域の子育てステーションになる取り組み】

●わおわお元住吉保育園では、地域の子育てステーションになることを目指し、地域ニーズの把握、提供できる豊富な保育知識・保育技術・保育情報・ホスピタリティ精神等を習得し、地域の子育てステーションに向けて取り組みます。スタート活動として、園の誕生会に地域の子育て親子を招待することや、散歩先の公園で地域の子もたちと一緒に遊ぶこと等の取り組みをしています。地域はタワーマンションの増築などの影響もあり、子育て世代が増えています。しかし、育休の延長も増え、0歳児の入園希望の低下や、核家族が増え養育の低下がみられるため、地域の子育ても含め支援が必要になっています。保育知識・保育技術などの専門性の人材育成では、子どもに合った対応が出来る手順書を作成し、専門性の取得研修を行っています。手順書の冒頭では、『保育をしっかりと実践するためには、子どもの気持ちや感情を理解できなければ、子どもに「寄り添う」・「共感」・「受け入れる」・「受け止める」こともできず、子どもがその保育士に安心感や信頼感を寄せることはない。そのためには、先ず、子どもの「表情」「しぐさ」「声（言葉）」「行動」から心情を理解できなければならない。』と明示され、手順書には多くのステップを踏んで子ども理解ができるように作成されています。尚、子育てステーションに向けた取り組みにおいて、園児の誕生会に招いた子どもたちには園児と同じようにお祝いを行い、誕生プレゼントを渡し、保護者には園見学を促し、希望により育児相談も受けています。散歩先の公園では持参した遊具で地域の親子と一緒に遊び、育児相談を促しています。わおわお元住吉保育園は、積極的に地域の子育て親子と交流し、育児を行う母親の心に寄り添い、先を見据えて地域の子育て支援に貢献しています。

2. 【5つの特徴ある主活動の展開】

●わおわお元住吉保育園の保育の特徴に5つが挙げられます。それは、知育、体育、英会話、食育、リズム遊びです。「知育」については、ガウディアの保育理論であり、自分で気づき、子どもが本来持つ「学ぶ喜び」を引き出す学習を展開しています。これに沿って7つのカテゴリー「言語」・「流暢」・「数」・「空間」・「知覚」・「推理」・「連想記憶」のカリキュラムを構築し、子ども自身で体験できる『考える学習』を実践しています。「体育」は、幼児体育指導者検定有資格者の指導による、跳び箱、マット、運動、鉄棒等の経験により身体能力等を伸ばします。「英会話」では、外部のネイティブな講師が英語の歌と遊びを通して身体を動かしながら、英語のリズムや発音で接し、子どもたちへ英語への興味・関心を育てています。「食育」は、野菜等の栽培から調理体験を行い、「食を営む力」の基礎を身に付けています。「リズム遊び」は音楽を使って、身体的、感覚的、知的に優れた子どもの育成を目指した活動です。特徴ある5つの活動の展開を図り、子どもたちはあらゆる角度から刺激を受け、楽しいから学びへとつなげています。

◇改善を求められる点

1. 【地域の子育てステーションになる取り組みのさらなる推進について】

●平成30年に施行された新保育所保育指針には、保育所の特性を生かした支援、不適切な養育が疑われる家庭への支援が挙げられており、近年の虐待の増加の状況を勘案しています。また、元住吉地域では、タワーマンションの増築などで子育て世代が増えています。しかし、育休の延長も増え、0歳児の入園希望の低下、核家族が増え、養育の低下がみられ、保護者への支援が必要になっています。わおわお元住吉保育園では、子育て支援事業の一般的なラインナップの実施には制限がある中、子育て支援活動に取り組み、工夫を最大限行っています。法人の今年度の運営方針に記載されている、「知識や情報をインプットし、アレンジして活用できるようにするのが知恵です。それをアウトプットし、振り返り、改善を図る。組織も人もその繰り返しをすることでしか成長を遂げることはできない。」とあります。わおわお元住吉保育園では、子育て支援の研修を積んでいます。その身につけた専門力を使う機会の生かし方が課題であり、保育室が利用出来なければ別棟の職員休憩室等の代替案を考える等、また、全く違った視点での取り組みを法人本部と連携及び検討を図り、子育てステーションの種を蒔いていくことを期待いたしております。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名： わおわお元住吉保育園

施設長： 氏家 朋子

<評価に取り組んだ感想>

- ・日頃から取り組んでいくべきことが出来ていなかったことに改めて気付かされた。
- ・第三者評価を受けるにあたり、職員で勉強会や保育をしっかりと振り返る(違った視点から振り返ること)ができたので、改善点も併せて職員間で話し合うことができて良かった。
- ・行事などでアンケートを取り、保護者の声も聴けていると思っていたが、色々な点で率直な意見が聴けて良かった。

<評価後取り組んだ事として>

1. 保護者からの意見をもとに、反省すべき点は、職員各々が自身の言動を振り返り反省し、改善に努めるようにした。
2. 改善すべき点や課題が見えたので、職員間でどうすべきかを話し合い、実践にうつした。
3. 計画に沿った振り返りをしっかりと行い、次の保育へとつなげていけるよう仕組みを作り、職員間で共通理解できるよう、研修を行い、取り組むことができた。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり